

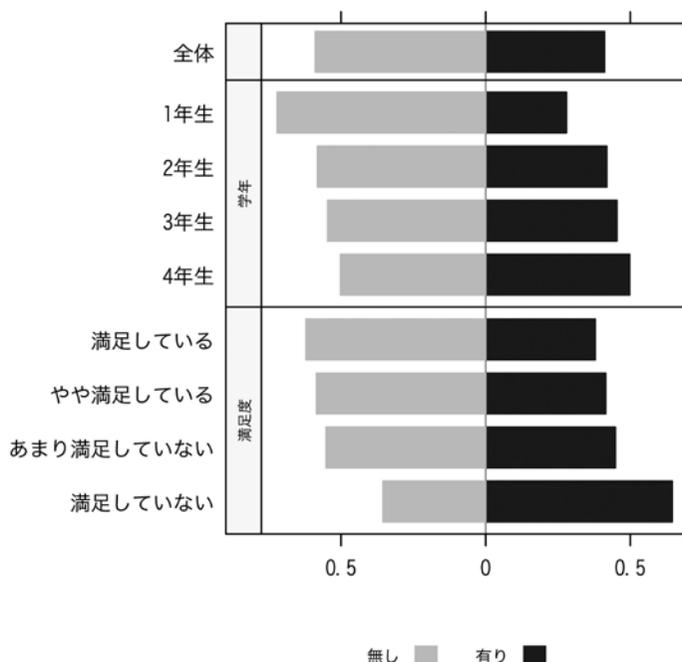
Ⅲ 自由記述のまとめ

ここからは、調査票の最後にもうけられた自由記述設問について、その回答の記述的な分析を報告する。自由回答設問は、「本学での授業や生活について何か思うことがあれば自由にお書きください。」というリード文のもと、9行（350文字程度）の罫線に回答者が自由に回答するものである。自由記述は、第2回調査（1979年）から継続しているものであり、第16回調査（2010年）からはその内容をPDFでインターネット上に公開している。個別の回答は、それぞれ生の学生の声として貴重なものであり、ひとつひとつに真摯に向き合っていくべきものであろう。本報告書では、その個別回答のすべてを紹介することはできないので、記述内容を量的に処理した上で、回答およびその回答者の概要と傾向を紹介する。

1. 自由記述の回答者

自由回答欄に何らかの記述があったのは、1085票中458票（42%）である。このうち、「特に無し。」など具体的な回答内容がないものが12票あり、それらを除く有効回答は1085票中446票（41%）であった。第17回調査（2012年）では約29%、その前の第16回調査では約34%の有効自由記述回答があった。前2回の調査に比べると、自由記述への回答率があがっているといえる。学部学年ごとの回答数と回答率は表の通りである。全体として、前回調査と同じく学年が進行するにつれて、自由記述への回答率が高くなっている。自由記述の有無と満足度（Q1）との関係は、「満足している」で回答率38%、「満足していない」で回答率65%と、満足度が下がるほど記述者が多くなる傾向にある。

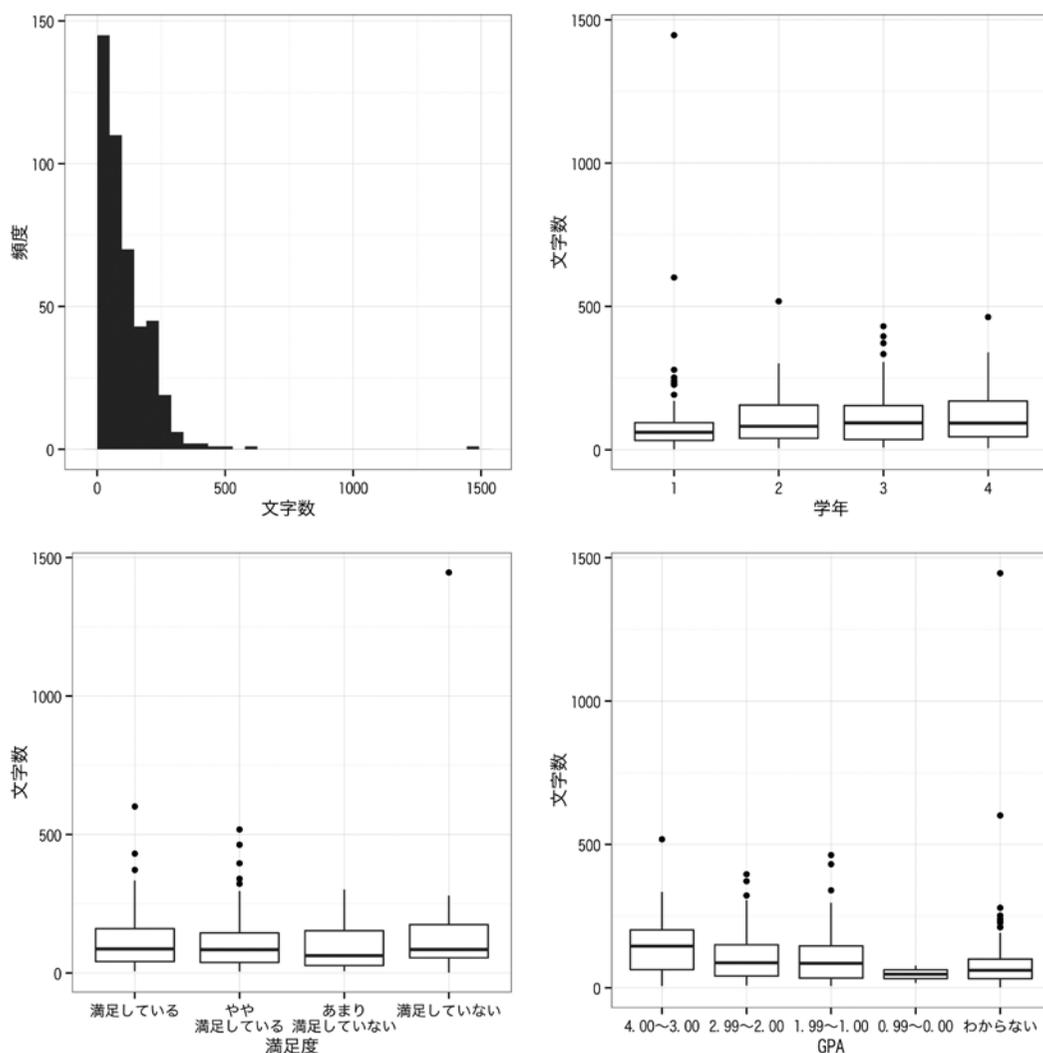
図Ⅲ-1 自由記述の回答者ならびに満足度



2. 自由記述の長さ

自由記述の有効回答における文字数を集計すると、最小値は2文字（「面倒」の一言。）であったが、最大値は1446文字でショートエッセイ並の記述であった。中央値は83文字、平均値は約109文字（標準偏差108）で、多くの回答は複数の文から構成されている。学年別に文字数を比較すると、1年生は平均96文字、2年生106文字、3年生114文字、4年生116文字である。この平均文字数は有効回答の中での平均値なので、学年が進行するにつれて記述率が増えるだけでなく、記述量も増えていることがわかる。満足度（Q1）と記述の長さの関係は、「満足していない」が一番長く平均169文字、次に「満足している」が平均112文字となっており、満足度の両極で記述が長くなる傾向にある。GPA（F4）と記述の長さとの関係は、「4.00~3.00」で平均145文字、「0.99~0.00」で平均48文字と、成績が良好な回答者ほど長く記述する傾向にある。

図Ⅲ-2 自由記述の頻度・長さ



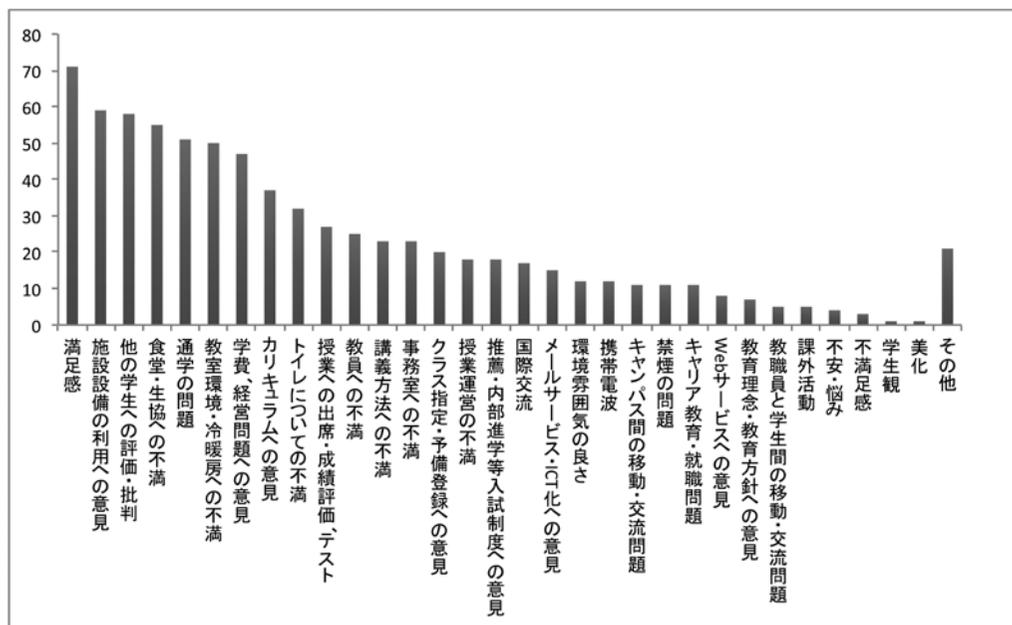
3. 頻出単語

自由記述に記された文章を形態素解析し、使用されている単語を抽出したところ、全部で28938語、重複する単語を省くと2772語が観察された。単語の出現回数は、最小値1回、中央値2回、平均値10回、最大値で1384回である。自立語で出現頻度が高いものは表の通りである。出現回数が多かったのが、「授業」という単語（229回）である。設問そのものに「授業や生活について」とあるので、当然といえば当然であるが、「生活」が42回しかないことに比べれば、授業に関する記述が多いことがわかる。「授業」「科目」「勉強」「単位」「英語」「履修」「ゼミ」「学習」「出席」「必修」「履修」などが、授業に関係する単語である。「先生」「教授」などは教授者に関する単語、「学生」「人」「生徒」（大学生を「生徒」と称する記述が13件ある）「友人」「留学生」など、学生に関する記述も少なくない。「事務室」「事務」「事務所」「職員」などは事務職員に関する記述である。「大学」「キャンパス」「学部」などは、大学の制度や特定のキャンパス・学部の事情を訴えるものである。「教室」「パソコン」「図書館」「食堂」「トイレ」「生協」「設備」「施設」「喫煙」「クーラー」「温度」など、施設・設備や環境に関するもの、「バス」「定期」「交通」「通学」「甲東園」など通学に関するもの、「学費」「授業料」などお金に関する記述も少なくない。「就職」「就活」「キャリア」は就職にかかわるもの、「推薦」「入試」は入試に関する記述である。これらが大凡の記述内容の分類である。

表Ⅲ-3 頻出単語（頻度）

授業	学生	大学	人	キャンパス	関学
229	164	140	124	113	70
学部	入学	食堂	時間	教室	利用
62	62	55	54	53	53
バス	改善	環境	三田	学校	生活
51	45	45	44	43	42
生徒	充実	トイレ	上ヶ原	先生	お願い
41	39	38	36	32	31
科目	号	図書館	聖和	館	活動
31	31	31	31	30	29
非常	必要	学費	教授	4	年
29	29	28	28	27	27
勉強	関西学院大学	単位	パソコン	友人	一般
26	25	25	24	24	23
英語	対応	履修	学内	ゼミ	教育
23	23	22	21	20	20
教員	留学	プログラム	喫煙	就職	人数
20	20	19	19	19	19
制度	設備	満足	お金	差	私語
19	19	19	18	18	18
数	生協	年間	学習	機会	残念
18	18	18	17	17	17
施設	出席	推薦	大変	点	必修
17	17	17	17	17	17
サークル	駅	回生	建物	商学部	G
16	16	16	16	16	15
きれい	レベル	以上	事務室	所	多く
15	15	15	15	15	15
内容	不便	留学生	質	授業料	集中
15	15	15	14	14	14
正直	生	席	説明	定期	毎日
14	14	14	14	14	14
学	関学生	限	入試	雰囲気	クーラー
13	13	13	13	13	12
クラス	センター	たくさん	以外	快適	甲東園
12	12	12	12	12	12
講義	参加	社会学部	抽選	日	無料
12	12	12	12	12	12
理解	キャリア	意欲	疑問	議	交通
12	11	11	11	11	11
講	際	場	場所	職員	全て
11	11	11	11	11	11
態度	通学	棟	年生	部活	様々
11	11	11	11	11	11
用	力	シャトル	スペース	テスト	温度
11	11	10	10	10	10
夏	回	語学	今後	仕方	事務
10	10	10	10	10	10
場合	注意	度	費	勉学	意味
10	10	10	10	10	9

図Ⅲ-3-2 自由記述の内容（分類項目別）

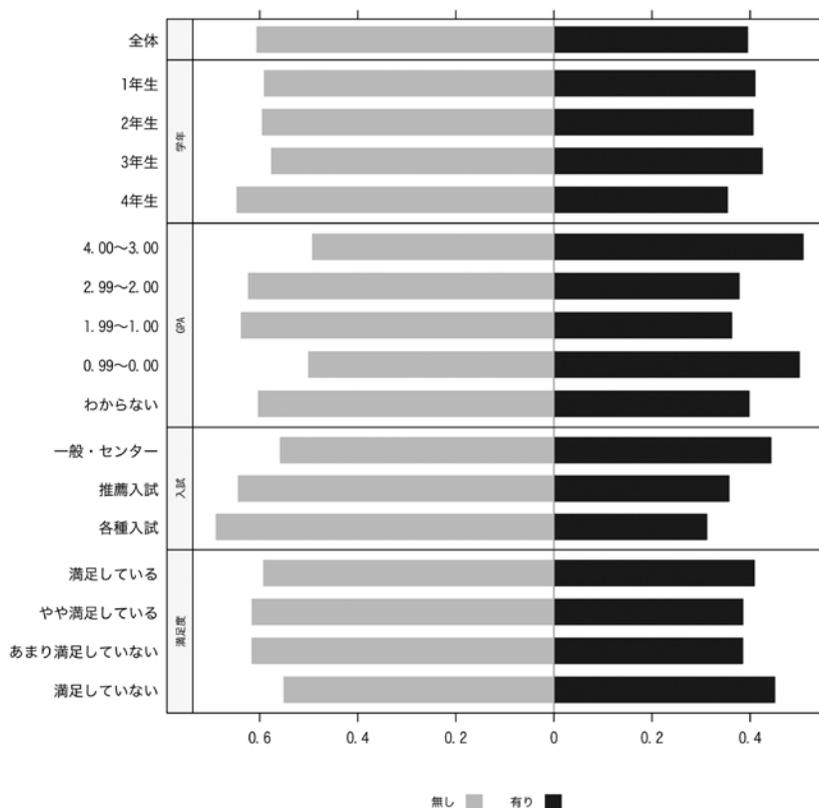


4. 頻出内容と回答者の特徴

では、こうした内容をどのような回答者が記述しているのでしょうか。

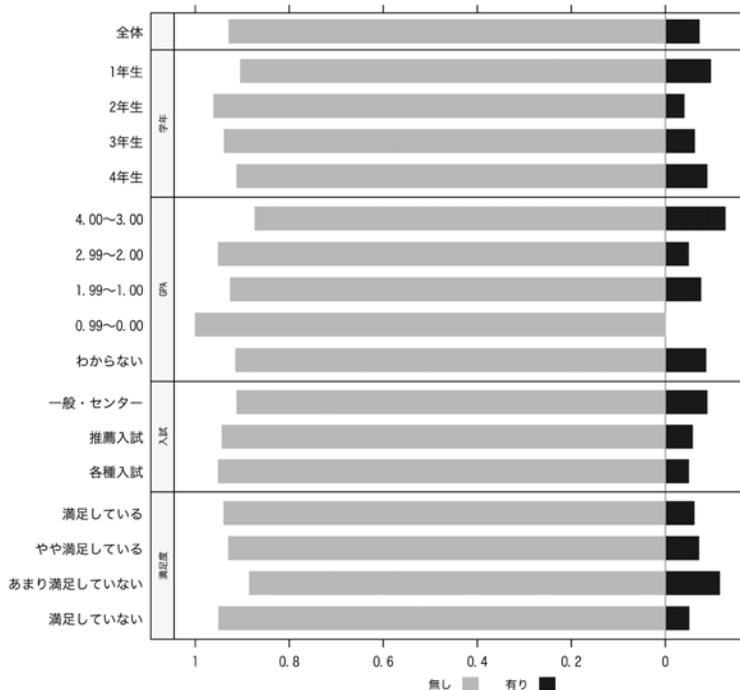
まず、どのような回答者が「授業」に関連する記述をするのかみてみよう。授業関連の記述は全体で176件であり、有効記述のうちの39%をしめる。授業関連語群の記述の有無を学年、性別、成績、満足度で比較したところ、成績がよい人ほど、そして大学生活に不満である人ほど、授業に関連する記述をしていることがわかった。大学生活への不満のある種の源が、授業に関連しているものと推測される。自由記述において、「授業」という単語と有意に関連する単語としては、「内容」「出席」「人数」「質」「レベル」「私語」などがある。個別の記述は公開された自由記述をご覧いただき、どのような不満が発露されているのか確認いただくのがよいだろう。

図Ⅲ-4-1 「授業」に関する自由記述（全体）



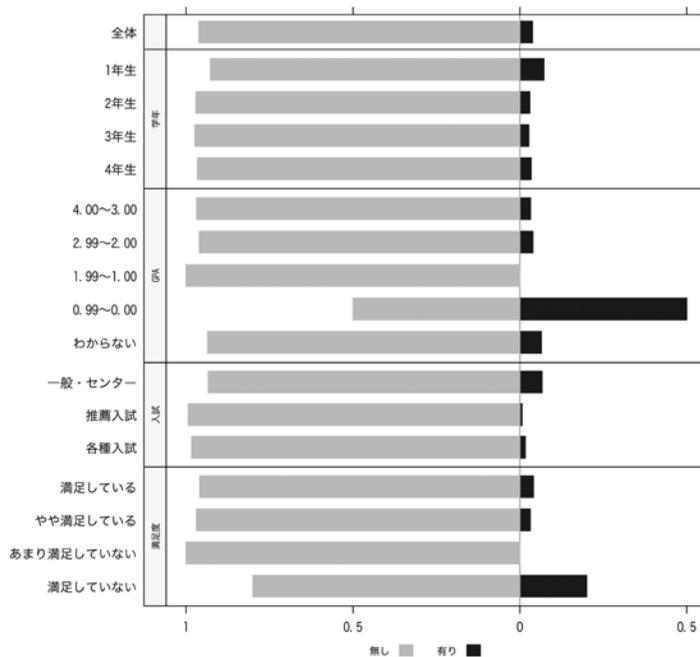
授業に関連する不満として比較的多くみられるのが「私語」である。「私語」およびそれに類する「うるさい」という記述は、全体で32件（有効回答中7%）ある。私語関連語群の記述者がどのような特徴をもつかみてみよう。成績別では、成績がよい回答者ほど、私語に関する記述をしている。そして、入試種類別にみると、一般入学試験やセンター利用入学試験で私語に関する記述の比率が高く、推薦入学試験やその他の入試種類ではその比率が低い傾向にある。まじめに授業を受けている者の不満の発露、ということであろうが、それが入試種類で傾向がわかれてしまう点は対策を考えなければならない。それぞれの入試種類にはアドミッションポリシーがあって選抜が行われているとはいえ、入学前教育やレベル別のクラスなど、教育環境確保が課題となる。

図Ⅲ-4-2 「授業」に関する自由記述（私語）



「入試」や「推薦」など、入学試験に関する記述は17件（4%）あり、低学年ほどそして一般入学試験やセンター利用入学試験で入学した回答者ほど、記述する比率が高い。学年が進行するにつれて、意識することが少なくなるのかもしれないが、さきほどの私語の問題と同じく、初年次においては入試種別の差を学生が意識せざるをえない状況は一考の余地があるといえるだろう。

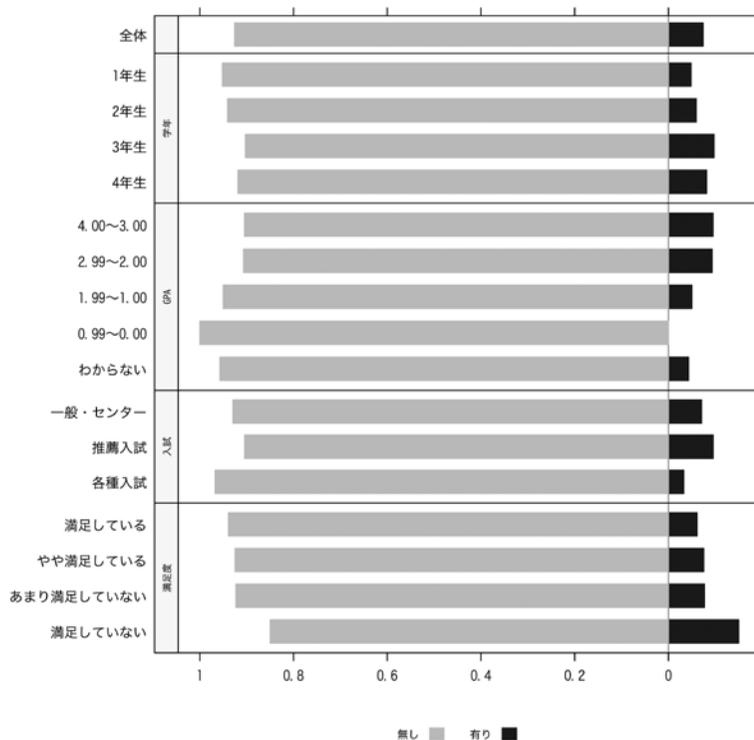
図Ⅲ-4-3 「入学試験」に関する自由記述（全体）



施設・設備の中では、「トイレ」に関する記述が35件（8%）ある。トイレに関しては、男性の記述率が5%であるのに対して、女性の記述率は10%と大きく差がひらいている。「食堂」や「生協」に関する記述は55件（12%）で、成績がよい人、満足度が高い人の記述率が高い。

「授業料」や「入学金」など、お金に関する記述は全体で33件あり、有効回答中の7%をしめる。これに関しては、1、2年生に比べると3、4年生の方が、成績が悪い人に比べると良いの方が、記述する傾向にある。関連する言葉としては、「高い」「みあう」といった額そのものに関する記述も有れば、「使い道」など大学側のお金の使い方に踏み込んだ記述もある。よりコミットメントの高い層が、学費やその使い道に疑義をもつというのは好ましい状況ではない。

図Ⅲ-4-4 「入試種別」に関する自由記述（全体）



5. まとめ

自由記述への回答は、年々増えている。多くが不満や注文の記述であることを考慮すれば、回答者の「権利意識」が高まった結果だともいえる。中には、回答者の誤解や非現実的な内容もないわけではない。しかし、調査対象者である学生たちが、抱いている考えを受け止めることは大学側の責務である。ここでは、全体の傾向や概要しか紹介できないが、是非具体的記述の一つ一つに目を通していただきたい。